

ほぼ1世紀前、ハーバード天文台の a cramped room で、今ではほとんど忘れられているが、一人の聡明な女性が宇宙の広大さを見出す鍵を見つけた。

彼女の名前はヘンリエッタ・スワン・リービット。女性が科学者としての経歴から遠ざけられていた時代に、彼女は「計算機械」、すなわち、天体写真に写っている星の位置や明るさを計算するために雇われた

として知られていた。健康上の問題、徐々に失われていく聴覚、写真乾板上の区別がむずかしい specks と戦いながら、彼女は新しい法則を発見する。そして、それは宇宙論の分野を一変させることとなる。

リービットの発見によって、天文学者は「変光星」という種類の星—その明るさが規則的に明るくなったり暗くなったりする星—を宇宙の一里塚として使うことができるようになった。彼女が見つけた法則は、当時天文学者たちを2派に分けていた疑問、すなわち、宇宙はどれくらい広いのか？にたちまち enlisted to settle 決着をつけた。一方は、天の川全体がすなわち宇宙の広がりそのものであると主張していた。しかしながら、リービットの法則を用いて、伝説的な天文学者エドウィン・ハッブルは、天の川の遥か遠くにたくさんの星—実際にはすべての銀河—が存在することを証明することができた。